



# 三国中学校だより

【校訓】誠心 自主 創造

— 自ら想像し、考え、行動する生徒の育成—

合言葉：進取果敢



小郡市立三国中学校

第 25 号

令和8年3月12日発行

文責 校長 米倉佳美

## 1年生大刀洗フィールドワーク ～平和の尊さを確かなものに～

3月4日（水）に大刀洗平和記念館、<sup>えんたいごう</sup>掩体壕や頓田の森を巡るフィールドワークを行いました。前日の3日（火）、このフィールドワークに向けた事前学習の日は冷たい雨が降っていましたが、当日は天気も回復し学びにとって最適な1日となりました。

事前学習では、語り部の さんをゲストティーチャーとしてお招きし、大刀洗空襲の経験をもとに、当時の出来事や平和への思いについて語っていただきました。さんと校長室でお話しした際、「今日の雨は、戦争で犠牲になった人たちの涙のような気がします」とおっしゃっていたのが心に残っています。私たちの命はこの戦禍を乗り越え生き延びた人たちが繋いでくださったものであり、歴史を学ぶことで、この平和をよりよい未来へとリレーしていくことが大切だと改めて実感できるお話でした。

フィールドワークでは、敵の攻撃から飛行機を守るための格納庫である掩体壕（大刀洗飛行場周辺にはいくつも造られましたが現存はこの掩体壕のみ。高さ7m30cm 幅4.4m。）、立石国民学校の児童が避難した頓田の森（昭和20年3月27日午前10時ごろ、大刀洗飛行場を目標とする米軍のB29爆撃機が投下した爆弾が頓田の森を直撃）を訪れ、大刀洗平和記念館では、戦争で亡くなった方々を忘れないための写真や記録から平和の尊さについて学びを深めることができました。

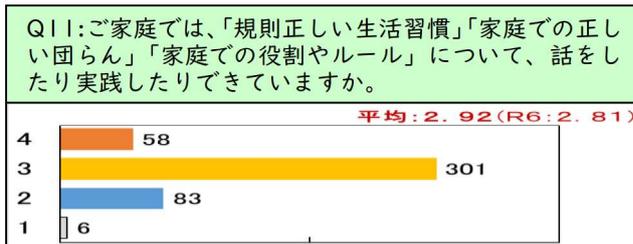
以下に、子どもたちの感想を紹介します。

- ◆私は、大刀洗フィールドワークを通して、平和の大切さと命の尊さについて考えることができました。特に印象に残っているのは、大刀洗平和記念館で見た特攻隊員の手紙や遺書です。もう会うことのできない大切な人への想いがつづられていて、胸がつまるような思いがしました。また、犠牲者の方々の写真や年齢を見て、幼い子どもや若い人がたくさんいることを知りとても悲しくなりました。改めて、戦争のひどさや悲惨さを後世に伝えていくことが重要で、平和な世の中にするためにどのように行動していくのか考え続けることが大切だと思いました。
- ◆頓田の森へ行き、実際の避難経路を通ってみると、当時の様子がうっすらよみがえってきた感じがしました。子どもたちがどれだけ走ったか、子どもたちがどれだけ怖い思いをしたか。うっすらだが感じました。
- ◆頓田の森では、子どもたちがここに実際に避難してきたということと、ここでたくさん命が爆弾によってなくなってしまったということが分かりました。「たくさんなたまたまが積み重なり、このようなことになった」ということを聞いて、その偶然がなかったら子どもたちの命はまだあると思い悲しくなりました。

## 保護者アンケートより ～ご協力ありがとうございました～

昨年12月、保護者のみなさまには、大変お忙しい中アンケートにご回答いただき、誠にありがとうございました。アンケートの結果を紹介させていただきます。

【4 とても 3 まあまあ 2 あまり 1 まったく】



Q1「学校は、教育目標や学校の様子を、通信やHP等で分かりやすく伝えている」は、昨年度同様、肯定的回答をたくさんいただくことができました。次年度もきめ細やかな発信を心掛けてまいります。

一方で、Q4「授業が楽しくわかりやすいと言っている」は、授業改善に課題があることが顕著です。このことを私共は真摯に受け止め、子どもたちの関心意欲を引き出し、学びを深められる授業を今後しっかりと創ってまいります。また、記述式の具体的なご意見もたくさんいただき有難うございました。身に余る感謝のお言葉から、私共が反省すべき厳しいご意見まで賜り、全教職員で共有しております。今後、生かしてまいりたいと考えております。ありがとうございました。